

総合支所管内の課題

現状

- ◎宮城総合支所管内人口(平成26年12月末)
平成元年34,122人、平成10年53,952人、平成26年71,770人と大幅に増加
- ◎15歳以下の若年人口の割合も、平成26年で16.7%(全国平均13.1%)と高い
- ◎西部山岳陵地区の人口は、平成元年3,862人、平成10年3,805人、平成26年2,810人と減少し、65歳以上の高齢化率も53%と高い
こうした現状を踏まえ、更に宮城地区が発展していくために、以下課題を示す。

1.宮城総合支所の機能強化

- ・宮城総合支所は地区の拠点として重要
- ・道路や公園の建設関連、町内会支援などの業務はほとんど区役所と同等に機能しているが、福祉関係については生活保護のように窓口すら無いものや、窓口があっても体制が不十分で相談などに適切に対応できない業務が多い
- ・人口7万人を対象とする支所の体制整備、機能強化が必要

2.宮城総合支所圏域の主な施策

- ・吉成、郷六、折立丘陵の経年化、地域のコミュニティの形成、道路・公園の適正な維持
- ・鉄道へのバスの結節を進め、公共交通の利便性を図る
- ・防災・防犯の安心・安全の確保、高齢者への在宅支援を図る

落合・栗生・愛子・錦ヶ丘等の周辺地域

- ・当地域の人口増加を踏まえたコミュニティづくり、若い世代が安心して子育てできる環境整備を図る
- ・交通の利点を生かした良好な住環境づくり、仙山線の複線化、新駅設置、愛子バイパスの熊ヶ根への延長。秋保・愛子・泉の外外線の整備促進を図る

西部山丘陵地域

- ・作並・奥新川の観光資源、定義如来の歴史的資源は仙台の貴重な魅力。観光交流の場の振興を図る

3.未来型教育の開発と人材育成

- ・高齢少子化時代には一人一人の子供が将来の日本を背負って立つ人材として育つ必要
- ・義務教育から自分を拓き強く生き抜く力を持つ児童生徒の育成を貫く

思いやりのある児童生徒(豊かな心)

- ・あらゆる場で豊かな心と、ともに高め合う実践と発表により自信と実力の育成
- ・体験活動・交流活動を通して「思いやりの気持ちを持ち、温かい心で考え行動できる児童生徒」が子供社会の常識へと進化
- ・学校と家庭の子育て意識の共有と指導の共通実践(家庭と学校の信頼関係の熟成による密接な連携と対話、実践発表会)

つながりのある学校づくり(家庭・地域社会との連携)

- ・地域の人材等の積極的な活用と、地域から学ぶ教育活動の推進(学校では得がたい新鮮な学習の場づくり、活用・探求の学習の重視)
- ・学校・地域社会での活動を積み重ね発表を兼ねて地域行事への積極的な参加・協力
- ・自分づくり(自分への目覚め)教育の推進

4.震災復興、防災対策

- ・広大な地域に集落が散在していることから、大雨、豪雪や土砂災害危険時における円滑な情報提供や避難のあり方の検討
- ・防災拠点機能及び自衛隊等の災害対策拠点
- ・救援物資の中継場所の設置
- ・緊急避難場所としての拠点づくり
- ・除雪対象路線のアンバランス是正の必要

5.地域医療

- ・大規模な病院がないことから誘致をし、地域医療体制を充実
- ・西部地区は医療機関が少ないので通院手段の確保が必要

6.経済関係

- ・世界一を誇る半導体試験装置研究所、ウキスキー世界最高位受賞のニッカ仙台工場、除染に活用されている仙台産ゼオライト、上愛子地区松原工業地域の西部へ大胆な拡大。
- ・スポーツ産業の振興
- ・定義～作並の回遊ルートの開設
- ・クマ、イノシシ、サル対策の推進
- ・耕作放棄地の利活用推進

道の駅の設定

- ・観光拡大効果 観光拠点の提供、スタンプラリー等のイベント実施、地域の特産品等の紹介・販売
- ・地域の雇用・就業拡大効果 農産品等の出荷販売場所、レストラン等での雇用の場
- ・地域コミュニティの拡大効果 地域の交流の場、産品等の生産者間の交流の場

7.まちづくり

- ・宮城総合支所周辺を中心とする市街地の整備
- ・愛子駅前地区の開発促進
- ・仙山交流の起点づくり
- ・下愛子地区、上町南町内会地区、二岩地区の町名変更の整備
- ・宮城総合支所管内を巡回するループバスの配置